

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
2004 年 OB 通信第二号

〒753-0841 山口市吉田 1677-1
山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会事務局
URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>
E-mail tabidori@yamaguchi-u.ac.jp

12 月発行

はじめに

山口は日に日に寒さが厳しさをまし、山々はすっかり冬を越える準備を整えたようです。今年は台風が多く、大変な年となりましたが各地におられるOBの皆様方はいかがお過ごしでしょうか。現役は夏合宿を終え、寒さに負けず日々トレーニングに励んでいます。また、来期の執行部の話し合いも活発におこなっているようです。

さて、今年は福岡で開催された10/10のOB総会はたくさんの皆さんに出席していただき無事終えることができました。いくつかの議題が承認されましたが、その一つに来年の総会は関西での開催となりましたことをご報告致します。来年も皆さんのたくさんの出席を心よりお待ちしております。

連絡先

OB会についてなにかご意見、ご質問等ありましたら、上記のメールアドレスか下記の連絡先にご連絡よろしく願いいたします。

事務局 (2004 年末日まで)

植本 洋

次期事務局 (2005 年より)

井手口 謙三

目次

第1章	OB会の活動	1
1.1	さらなる発展を	1
1.2	新生OB会の近況とお願い	2
1.3	2004年OB会総会 福岡にお越しいただきありがとうございました。	3
1.4	ご先祖様の青春	4
1.5	総会・懇親会に出席して	6
1.6	2005年事務局より	6
1.7	創造してみてください 名称を	7
第2章	OB会員の皆様へ -事務局より-	8
2.1	お知らせ	8
2.2	2004年OB総会・懇親会 in 福岡	8
2.3	2003年会計報告	8
2.4	OB会費納入について	9
2.5	入会、脱会について	9
第3章	現役活動報告 -本部-	10
3.1	執行部近況報告	10
3.2	夏合宿結果報告 北アルプス(裏銀座～表銀座)	10
3.3	夏合宿結果報告 北アルプス(裏銀座～表銀座)	13
3.4	第41回中国四国合同ワンデリング結果報告	15
3.5	アフター結果報告 中央アルプス(木曾駒ヶ岳、宝剣岳)	16
3.6	一年生合宿結果報告(美ヶ原)	17
3.7	春合宿について	18
第4章	現役活動報告 -工学部-	19
4.1	執行部近況報告	19
4.2	夏合宿結果報告	19
4.3	80km 耐久徒歩結果報告	22
4.4	春合宿コース紹介 (奄美大島ロードトレッキング)	22

第1章

OB 会の活動

1.1 さらなる発展を

OB 会会長 末國弘司

穏やかに明けたかに見えた?年も後半には相次ぐ災害に見舞われるという異常な年となりました。新年こそはぜひ穏健な明るい年であって欲しいと、願っております。

新生 OB 会の発足当初から会長の重責を戴き、木山副会長とあれこれ模索して参りました。遅々たる歩みであり成果については会員諸氏にお任せするしかありませんが、本日にまで至った経緯その他は、木山副会長の稿に尽きております。

あえて付け加えるならば、OB 会総会を各地で開催する目的は、繰り返しになりますが 4, 5 年に一度でも居住地の近くで開かれれば参加しやすくなるであろうことと、それを機会に世代を越えた交流が活発化すればと願ってのことです。ですから総会開催を機に、そのような交流会が各地で企画されるようになることを希望しています。総会の時だけではなく日常的に会員の懇親・交流が行われること、これが今後の課題の一つであると思っています。

会員間の交流が活発になれば、自然発生的に新しい発想が生まれ次のステップへ移行する、そうなれば組織としてもより強固になります。

そのためにはまず、会員一人一人が声をあげる、意見を言い合うことが求められます。若き時代のワングルボックスでの、合宿のテントの中で



図 1.1 受け付け中

の、打ち上げコンパでの談論風発を思い出してみてください。思いつくままで結構です、まずはこの OB 通信を談論の場として下さい。OB 通信でもどかしければ、間借りしているワングルのホームページを利用して下さい。

末尾になりましたが、2005 年の総会は関西で開催となりました。堺原氏を始めとする関係各位のご努力に感謝いたします。開催に向けてこれから作業が始まりますが、関西在住の会員諸氏のご協力を改めてお願い致します。なお開催に至る経過等については、次回の OB 通信でご案内できることと思います。

新年こそは穏健な明るい年であって欲しいと冒頭に申し上げましたが、我が OB 会にあっては新年こそ新たなステップへと踏み出す一歩になって欲しいと願っています。



図 1.2 会長より

1.2 新生 OB 会の近況とお願い

OB 会副会長 木山克彦

暮も押し迫って参りました。

今年は数多くの台風、局地的集中豪雨、新潟の地震と、日本列島のいたる所に自然災害が発生し、悲惨な足跡を残して 2004 年を終えようとしています。

大学も独立法人として新しい歴史の第一歩を踏み出したばかりです。

又、痛ましい社会的な事件が次々と起こり、世相の荒廃を否応なしに感じるのは 1 人自分だけでしょうか？

皆様にとっては如何な年だったのでしょうか？

さて、この紙面をお借りし標題に付いて少々触れさせて頂きたく思います。新生 OB 会の運営にあって、OB 会の開催地を各地での持ち回り方式にしようとの議案が総会で決議され、一昨年は東京支部結成を記念して関東で開催した事は既にご承知と思います。

昨秋の山口での開催では現役を含めて 100 名を越える出席者を見るに到り、本年 10 月の福岡での開催では九州在住の方を中心に多くの方にご参加頂き、関東、関西などの遠隔地からも多数の方がお見えになり、更には中国など近県からも多くの方のご参加を頂きました。

50 名近い参加者を見るに到り、人によっては数十年ぶりの再会であった事も手伝って、心を躍

らせながら歓談し、盛会裏に催された事は嬉しい限りです。

翌年は関係者のご尽力もあって関西での開催の運びにもなって参りましたし、関東を振り出しに九州、来年の関西と、ポイントになる地区での開催は略一巡することになり、持ち回り方式も軌道に乗りつつ有ると判断されます。

このように、山口での開催では地理的、物理的な条件から果たし得ない課題の解決の為に敢えて勇気をもって着手し、各地での開催方式に踏み切った訳ですが、その過程で OB 会に明らかな変化がみられ、その内容は年毎に発展、充実しつつ有る事を皆さんと共に祝福したく思います。

まだ道半ばですが、新生 OB 会の所期の目的は高い精度で達成されつつあると評価できます。

是も偏に会員各位のご協力の賜物でありますし、折々で開催地の世話人の方には事前準備や設営に当っての多大なご尽力を頂き、此処に改めて敬意を表させて頂きますと共に、運営に当って常日頃の事務局の献身的な努力に御礼を申し上げます。

OB 会は元より会員の懇親の場である事から、今後より一層活性化して行く為には、多くの会員が OB 会を身近に感じ取れる体制を整え、せめて 2~3 年に 1 回程度は居住地近くで開催され、出席し易い物理的な環境を準備する事は今後とも注意しておく必要があるでしょう。

OB 会は OB 諸氏の意思と会費で維持運営され



図 1.3 懇親会



図 1.4 合唱

る以外の何物でもありませんし、会員資格と会費はリンクして居る訳ですから、今後の存続、維持、運営は永遠の課題でも有り、偏に会員の意思（会費納入）に拠るとも言えます。

此処で皆さんにお願いしたい事があります。

どうか、転勤、転居などの住所移動時には事務局宛にご連絡をお願い致します。ご連絡が無く移動先が解らずに送付物が戻ってきますと、OB会名簿の住所欄が【行方不明】との表示に成らざるを得ませんし、この時点から連絡不能になってしまいます。

事務局を現役をお願いしている事から事務的な処理にならざるを得ない訳で、この点を宜しくご理解ください。

巷間、人生の達人は【出会い】を大事にするとも聞きます。

と申しますのも、若い世代の参加者が少ない傾向が見えるからです。

OB会は久方ぶりに会う同世代同士の懐かしさも重要な側面であると同時に、世代や年代を超えて、新たな出会いが得られる場でもあります。

若い世代の人達はまだまだ日々の仕事や子育てに追いまわられてOB会処ではない事も一因でしょうが、面識のあるOB同士の一部の関係だけでなく、先輩が後輩を、その後輩が次の後輩を、と順次繰り返して世代が途切れる事無く会員の輪が広がって行けば、一層【出会い】の面白さや不思議さなども実感して貰える事でしょうし、

Y.U.W.V.OB会としての歴史を着実に刻む事にも繋がります。

この事をOB会員一人一人の役割として頭の片隅に置いていただき、次の機会には出席されるように誘い併せ、又、入会されて居ない方には入会をお薦め頂ければこの上なく幸甚に存じます。

更には近く入会資格を得られる現役諸君にも、この事を理解して貰い卒業と同時に入会頂き、多くの良き先輩諸氏と身近に触れて頂ければOB会としての存在意義は充分あることですし、無類の幸せと言えましょう。

来秋関西での盛会を祈りながら筆を置きます。

皆さん、どうか良いお年をお迎えください。

1.3 2004年OB会総会 福岡にお越しいただきありがとうございました。

2004年総会世話人 秋山邦雄（昭42卒）

10月10日、降りしきる雨の中、本年度総会の会場福岡の西鉄グランドホテルに、全国から46名の会員の皆さんにおいでいただきました。10月10日というのは、例年「晴れ」の特異日といわれており、秋晴れの福岡の街を楽しんでいただこうとこの日に設定いたしましたが、いかんせん今年は台風の襲来の「特異年」、思惑は外れました。

しかしながら、雨の中の遠くは前橋市の吉永氏（昭42卒）をはじめ、関東地区から4名、堺原氏（昭40卒）をはじめ関西地区から6名など多



図 1.5 最後に



図 1.6 全体写真

くの遠来の皆さんに出席をいただき、感激致しました。

この総会開催をきっかけに、九州支部結成へスタートできればと期待を込めた九州の会員は23名の出席、ちょうど半数を占めておりました。

世話人の8人で総会に向け、準備の会合を重ねましたが、8月末の時点では20名を切る状態で、少なからず焦りを覚えておりました。福岡での開催だからハンディはあるが、なんとか30名を目標に声かけをやろうと、世話人夫々で働きかけを行った結果、最終的には46名という予想以上の出席者を迎えました。とりわけ、創立期の先輩多数の出席をいただきました。世話人一同、気分高揚、感謝・感激の体でありました。

今回は、我がY.U.W.V.(本部)創立者の一人、永沼氏に大変なご尽力をいただき、42年の歴史を得意のハイテクを駆使して映像にまとめていただきました。創立期から発展期、最盛期、そして今日の現役諸君の活動状況まで、在福の世話人と現役の植本君手持ちの写真で構成されております。若かりし時代が蘇ったかのような鮮明な映像に、場内大いに盛り上がった次第です。多少、ブランクの時代はありますが、Y.U.W.V.の歴史のアウトラインは紹介できたのではないかと考えています。願わくば、今後ブランクの時代を補強して、完成していただければと次回以降の方に思いを話したいと存じます。

世話人が尻込みしていた翌日の十坊山登山は、

2次会の席で女性会員の積極的提案のおかげで、雨上がりの晴天の中、末国会長はじめ10名余の参加で実現できました。十坊山山頂の巨岩から、玄界灘の景色を楽しんでいただきました。

私どもは、今後九州での活動母体として、スタートすべく今回の世話人を中心に、気軽な活動を積み重ねていきたいと思っております。九州在住の皆さんには、今回出席いただいた方も、都合で出席できなかった方も宜しくお願い致します。

最後に次回の関西開催の総会での再会を楽しみにしております。

なにはともあれ、”福岡にお越しいただきありがとうございました！”

1.4 ご先祖様の青春

福岡総会世話人代表 昭和39年卒 永沼嗣朗

去る10月10日に開催した「OB会2004年度総会 in FUKUOKA」に遠路また万難を排してお越しいただきまして有難うございます。当初予想以上の参加者を得て無事盛況裡に閉会出来ましたことを世話人として皆様に感謝申し上げます。

卒業して早40年(部創立42周年)、実感として速いものですね。総会のテーブル席を懐かしい面々同士で青春の思い出話しをしやすいように年齢順にしました。誰かが最年長の私共のAテーブルをご先祖様と呼んでいましたが、確かに集合写真を見ると自分の風貌といい、前列席に座って



図 1.7 いざ十坊山へ



図 1.8 玄界灘

いる面々といい、それを否定は出来ません。ただ誰一人として歳を取ったことを忘れていませんし、まだ青春の後半と思い込んでいます。

まず、福岡開催までを振り返りますと、準備会（世話人会）を秋山氏（昭和42年卒）の音頭執りで2月から始め4月から毎月一回の集まりと直前の10月4日のリハーサル、10月29日の打上げまで、皆で知恵を出し合い、続く飲み会で充分に交流を深めてきました。

懇親会の出し物としてYUWVの活動を「人、物、金」の各面から40年前と現在とを比較してみようと「どんな場面を比べ、何を訴えたら良いか？」のシナリオ作りと押さえるポイントまで企画していましたが、「金」の面で”部費、遠征費用等”を確認するための資料の準備が出来ず披露することが出来ませんでした。「人」・「物」の面はスライド映写のごとく、部員数の推移（各年代の合宿集合写真）、食事の内容、テント・ザックの変遷例でどうやら披露することが出来ました。

元ネタは8名の世話人の当時の写真をアルバムから剥がし集めてスキャナーからパソコンに取り込んだ訳ですが、皆の協力が良くて180枚ほど集まりました。これらを簡単に説明するだけで1時間をはるかに越えてしまうし現役達の写真30枚を加えると更に時間的に収まらないということで枚数を削る準備会となりました。結局は、「福岡まで来ていただいたから発言の機会を作ろう」となり出席予定者の写真を優先的に編集して、あ

のように懇親会で多くの方に一言ずつ昔の話をしていただいた訳です（懇親会では160枚映写）。*参加者にはスナップ写真134枚も入れたCDRを添付。

また雰囲気を変える為に、OBの現況「スイスの山と博多の山」（小生のスイスアルプス・ハイキング、秋山氏の博多祇園山笠上がり）の14分間のDVDを映写した訳です。

昨年まで秋山氏が社長を務めていた良い会場（西鉄グランドホテル）で大きくプロジェクターで映写すると昔の懐かしいピンボケ写真も大変見応えのある映像となりましたが、皆様いかがでしたでしょうか。

小生は年金生活三年目ですが、青春の初めの頃はワンゲル部員として十二分に身体を動かしていましたし、サラリーマン時代はゴルフ場をジグザグに汗を流しながら歩き回り、今はスポーツクラブのベルトの上をハツカネズミのように歩いて汗を流しています。今でも健康に恵まれ元気に過ごせるのは”ワンゲルの歩き”のお陰と感謝しております。

更に振り返ってみますと、自然のサイクルに春夏秋冬があるように人生の四季では、花が咲き誇る「青春」は遠くなり、「朱夏」「白秋」（30～50代）は波乱多忙のサラリーマンとしてアツという間に通り過ぎました。今からは「玄冬」だろうが人生の達人といわれるような境地には到達できる訳ではないし、何時までも青春したいと一方的に



図 1.9 山頂にて

思っています。

ある先達は次のように曰く。「青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の様相（状態）をいうのだ。優れた想像力、たくましき意思、燃ゆる情熱、こういう様相を青春というのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うときに初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。希望ある限り若く、失望とともに老朽ちる（途中、相当省略し以下も省略）」と青春をうたっています。

皆さん、上の詩を都合よく解釈して情熱を冷まさないように前向きに歩きましょう。些細なことですが小生は今、WEBデザイナー（ホームページ制作）の勉強中です。その成果を旅でお世話になった人の商売のアシストにしようと奮闘中です。

また、翌11日の「十坊山（とんぼやま）記念登山」は前日の天気予報に基づき中止としましたが、元気な方々は決行（総会開催に毎年ご苦労されている末国会長も参画）しました。幸い天気予報がはずれて良い山行となった模様です。

これからは九州地区のOBメンバーの総意により集まる機会をつくり、柔らかな活動をしていく所存です。

今回は大阪開催です。また皆様と元気で会えるのを楽しみにしております。

2004.12月 夢多き年齢ボケの初代キャプテンより

1.5 総会・懇親会に出席して

事務局 植本洋

去年と今年で2回目になるOB総会。ただ今年は去年と違い事務局として仕事を持って臨むということで不安な面がありました。それに世代の近い人がいないということもあり、懇親会は寂しいものとなるんじゃないか!?とも思っていました。でも、懇親会の方は先輩方の方から声をた

くさんかけていただき、昔のワングルを知ることができ、とても楽しいものとなりました。特に全員で円になって、肩を組んで歌を歌っている自分を思い出すと今でもおかしく思います。あの時、歌ってのはいいなあ、と感じました。現在のワングルは山で歌を歌うなんてのはないんです。とてももったいない気がします。僕が今主将なら無理やりでもやらせるかもしれません。

二次会にもちゃっかり驕りで参加させてもらい、様々なお話を聞かせてもらいました。格別嬉しかったのは、「通信を送ってくれて有難う。」と言われた時です。事務局をやって良かったなど心底思いました。今回、間違いなく僕は自分の年齢を忘れていたと思います。本当に年齢差というものを感じなかった会でそれだけに楽しいものとなりました。

仕事の面では反省すべき点がたくさんあります。総会でも質問に用意が整っておらず、応えられないこともあり、少しどぎまぎしました。世話人の方や会長、副会長の先輩方には申し訳なく思います。この反省点を活かして、次期事務局が同じことにならないようにしたいと思います。

1.6 2005年事務局より

次期事務局 井手口謙三

こんにちは。現在、本部第44期主将を務めさせて頂いております、経済学部3回生、井手口謙三と申します。来年から現事務局である植本先輩の後任を僭越ながら、引き継がせて頂くこととなりました。今、自分のOB会事務局という立場に関する認識といたしましては、諸事情から中々、交流を持つ事の少ないOB・OGの先輩方と現役部員とをつなぐ、一種の橋渡しの非常に重要な仕事ではないかと考えております。若輩者ではありますが、精一杯頑張らせて頂く所存でありますのでどうぞよろしくお願い致します。

1.7 創造してみてください 名称を

OB会会長 末國弘司

OB会をリニューアルした当初から「会の名称とワッペンがあれば」との声があり、募集してまいりました。これまでOB通信を通じて、また総会の都度、応募を呼びかけていますが、残念ながら未だに芳しい反応がありません。ワッペンは名称が決まらなければ創案しづらいと思いますが、名称の方は気軽に案を出していただきたく思っております。できれば、2005年の総会で決定に漕ぎ着ければいいなあと、希望しているのですが.....。

そこで、いくつか挙がった案を披露し、考えるヒントにさせていただければ、と思います。

名称にはいずれも、「YUWV OB会」と「YUWV OB会」を被せた形にしようかと考えています。

また名称は、できれば「山口」を象徴するもの、あるいは自然に「山口」を連想させるもの、またワッペンを象徴するものであれば、理想的でしょう。

ということになれば、ワッペン創部時からのホームグラウンドである「鳳山」を考えるのは自然の流れでしょう.....。

といった次第で、つぎのような名称が挙がりました。(ちなみに、「鳳山」は「鳳山堂」という民芸家具会社が山口市にあり、使用は遠慮しますので念のため)さあ、あなたはどうか考えますか？

1. 鳳山会 2. 鳳遊会 3. 鳳翔会 4. 鳳岳会 5. 鳳親会 6. 山遊会
 7. 山歩会 8. あるき会 9. WV (が現役ではOBという意味。
- この場合は「YUWV OB会」の被せ名称は必要なくなります)

エトセトラ、エトセトラ.....

もっともっと、素晴らしい名称があるはずですよ。名称案の洪水は災害ではありませんので、大歓迎です。

第2章

OB 会員の皆様へ -事務局より-

2.1 お知らせ

今年より会費未納の場合は自然脱会となっております。会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

また、OB 会費納入状況については OB 名簿に記載しておりますが、2004 年から OB 通信第二号のみに OB 名簿を掲載となりましたことをお知らせ致します。

2.2 2004 年 OB 総会・懇親会 in 福岡

2004 年 10 月 10 日(日)、福岡市中央区の「西鉄グランドホテル」において「2004 年度 OB 総会・懇親会」が開催されました。総会には全国各地から 46 名の出席がありました。現役部員は今年山口主管で行われた中国・四国合同ワンデリングと日程が重なってしまい、参加は事務局の私だけとなってしまいましたが、来年からはまた多くの現役が参加できるものと思います。しかし、現役がいなくても活気あふれる OB の先輩方の懇親会はとても賑やかなものとなりました。懇親会は創立当時の頃の写真から今現在の写真をエピソード付きでスライドでながす演出があり、最後には円になって歌を歌いました。後は退去して 2 次会へというお決まりのパターンです。

翌日の 10 月 11 日(祝)には十坊山登山が行われました。天気が悪いということで参加者が減ったのですが、それでも 10 名の方が登られたとい

うことです。当日は予報が外れ、快晴となり気持ちの良い登山になったとのことでした。

OB 総会

1. 会長挨拶

2. 議事

- 経過報告

これまでの活動の経過報告 総会を地方分散へ、現役への装備品贈呈、通信の発行、九州支部への足がかり)

- 会計報告・監査報告

2003 年度の会計について監査の報告がなされ、承認されました。

- 今後の活動方針等

2004 年度の活動方針案として、総会を中心とし、通信を年 2 回発行継続、名簿を通信二号のみに添付、次期総会を大阪に、事務局の一任でノートパソコンの購入。以上が示され、承認されました。

2.3 2003 年会計報告

2003 年会計報告は、2004 年 OB 通信第一号に掲載すべきものでしたが、事務局の都合により掲載していませんでした。申し訳ありません。

2003 年内での収入、支出はつぎのようになっています。

収入	
利子	23 円
2003 年分 OB 会費	438,000 円
OB 総会での寄付金	68,000 円
計	506,023 円
支出	
事務局用雑費	6,890
OB 通信第一号関連費	71,337
OB 総会関連費	52,313
OB 通信第二号関連費	76,718
計	207,258

収入の OB 総会での寄付金 68,000 円は、2004 年に新入部員の装備代（シュラフ、アタックザック 5 個ずつ）にあてさせていただきました。

2003 年末での OB 会費総額は以下のようになっています。

OB 会費総額	
2002 年繰越	1,172,659
2003 年内に振り込まれた OB 会費	400,000
OB 総会での寄付金	68,000
利子	23
支払	207,258
合計	1,433,424

OB 会費総額のうち、前受金は以下のとおりになっています。

年別 OB 会費前受金			
2004 年	303,000	2011 年	8,000
2005 年	256,000	2012 年	6,000
2006 年	181,000	2013 年	2,000
2007 年	85,000	2014 年	2,000
2008 年	35,000	2015 年	2,000
2009 年	19,000	2016 年	2,000
2010 年	15,000		

計 916,000

2.4 OB 会費納入について

2004 年分 OB 会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいようお願い申し上げます。なお、2003 年分 OB 会費が未納の方は自然脱会となっております。

口座記号番号 01530-0-16050

加入者名 山口大学ワンダーフォーゲル部

また、会費納入は 1 年分か 5 年分一括納入のどちらかで御支払い下さいますようお願い申し上げます。

1 年分会費 2,000 円

(夫婦会員は二人で 3,000 円)

5 年分一括納入 10,000 円

(夫婦会員は二人で 15,000 円)

会費を口座に振り込んでくださる際に、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きます。御手数ですが必ず振込用紙を使って会費を納入して下さいようお願い申し上げます。

2.5 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前期の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

第3章

現役活動報告 -本部-

3.1 執行部近況報告

第44期主将 井手口謙三

今年の1月から執行部としての活動を始めて、約10ヶ月が経ちました。長かったようで短かったこの10ヶ月間。良い事も悪い事も含めている事がありました。そのどれも一つ一つが昨日の事のように思い出されます。そして今振り返ってみると、全てが良き思い出であり、人生における大いなる糧となった事は確かなようです。それを一つずつ細かく書く事はできませんがこの場をお借りして、簡潔に近況を報告させていただきます。

現在、現役部員は13名。1年生6名、2年生2名、3年生3名、4年生2名で活動を行っています。以前は14名だったのですが、先日1年生が1人辞めてしまい、13名になってしまいました。今までやってきた仲間がいなくなり悲しく、寂しいというのもあるのですが、それを乗り越え13名で明るく、良い雰囲気の中活動を行えていると思います。夏合宿までの諸行事は日程がギリギリになってしまったなか、なんとか、クリアする事ができたのですが、1年生の1人が二次練成の条件を満たす事ができず、残念ながら結局夏合宿に連れて行くことができませんでした。

夏合宿は結果報告の通りです。そして10月、山口主管で中国・四国合同ワンデリングを秋吉台にて行いました。これも後述の第41回中国・四

国合同ワンデリングの方を見て下さい。10月後半に行った清掃ワンデリングでは、日頃お世話になっている東鳳山に恩返しとして、ルート付近のゴミを、ザックを背負い回収したのですが、全て回収する事ができない程ゴミの多い場所もあり、決してゴミを自然の中に捨てる事はせずに持って帰るという常識とも言えるワンゲル精神の大切さを再確認できたように思います。忘年ワンデリングは11月に東鳳山で1泊2日で行い、4年生の先輩とワンゲル行事としての最後の山行を楽しむことができ、今まで以上に親睦が深まったのではないかと思います。僕達の執行部としての行事は忘年ワンデリングを最後としていたので、もうありませんが、今、新執行部承認部会を毎週火曜日に行っており、熱い議論が交わされています。それを含めて僕達にはまだまだやるべき事、またできる事というのは多くあります。

最後まで気を抜く事なく、そして交代してからも新しい執行部を影ながら支えていければと思います。

3.2 夏合宿結果報告 北アルプス(裏銀座～表銀座)

PL・責任者 井手口謙三

今年8月22日～29日にかけて北アルプスにて夏合宿を行いましたので報告します。今年は上級生の人数の関係上、2つのPartyが一緒に同じ山域に行く事となり、そのため12人という大人数

で行程を行いました。計画段階では人数の多さからくる、他の登山客とのすれ違いの問題や、せまいルートにおける危険性等も想定していたのですが、実際それといった問題もなく、比較的スムーズに行程できたのではないかと思います。

アプローチ1日目 8/22(日) 曇り時々雨
今回の合宿のアプローチは青春18切符を使用した2日間の鈍行移動。今日は湯田温泉駅から三重県の亀山駅まで。電車はすべて在来線なので比較的すいており、ゆっくりとできた。最初の方は合宿という興奮から話題も尽きる事はなかったが(特に1年生は元気!!)、昼を過ぎるともうみんな大爆睡。どれだけのヨダレがたれ流されたのかは不明だが、合宿前までの準備等による疲れを十分ここで取る。やはりギュウギュウづめの新幹線を使って1日で行くより、ゆっくりとのんびり在来線で2日間かけて行った方がはるかにいいなと感じる。夜7時頃、亀山駅に到着。そこから亀山公園まで(以外に長い)歩き、この日は公園のあずまやでビバーク。

アプローチ2日目 8/23(月) 曇り後雨
アプローチ2日目。鈍行といえどこの日はスピーディな移動だった。昼には松本駅に着き、そして信濃大町駅まで。そこからタクシーを使って高瀬ダムまで行く。タクシーの運転手さんに、途中にたくさんある湖、ダムの説明をしてもらい、大いに勉強になった。ロックフィルダムはガスで全容を見る事ができなかったものの、大感動。そして堰堤上に到着して、濁沢キャンプ指定地まで歩き、今日はここで終了。明日の天気が気になりみんな空を見上げていた。晴れるっ!!晴れるっ!!

1日目 8/24(火) 雨時々晴れ

2:10 沈決定

昨日の予想が見事的中。出発が早いので早々に沈を決定。昼過ぎに少し晴れ間が見えたが、すぐに振り出す始末。そして工学部が来た。一部コースがかぶっているので、これから行動も一緒に

なってしまうことが多くなるだろう。また、この日は晴れ間、晴れ間に登山者が多く来て、会話を楽しむ。山口から来たと言うと「長州の男の顔をしているねえ」とほめられた(?)。しかし、登山客のほとんどがすぐに戻ってきていた。どうもダムとテン場の向こうにある滝を見に来るだけの人もここでは多いようだ。明日こそは・・・。

2日目 8/25(水) 晴れ

	濁沢キャンプ指定地	4:00 発
8:42 着	三角点	9:00 発
10:48 着	烏帽子小屋	
	計8本	4:45

夜中トイレに起きる。満点の星空だ。よしっ、これは行けると思いながらまたシュラフにもぐる。2時に起床。雨は降っていない。ようやく山行だ。今日の行程は烏帽子小屋まで。北アルプス三大急登と呼ばれるブナ立尾根を登る。かなりきついんだらうなぁと思いつつ登り始めたのだが、そうでもなかった。確かにきついし、登りも急だったが、今までの鍊成などに比べれば十分楽。途中、下の方のエメラルドグリーンに輝く高瀬ダムに目を奪われつつもどんどん進む。稜線が見え始める頃になると一人女性の方でものすごいスピードで登って行く人がいた。すぐに追い抜かれたが、本当に速かった。かなりの登山経験があるのだろうか、それともド素人なのか、はたまた登山マラソンなのか・・・。歩き方(走り方?)も慣れているようでバテもない様子だったが、とにかく印象的だった。そうこうしているうちに烏帽子小屋に到着。下の方はガスっていたが、三ツ岳がよく見える。明日から縦走だ。

3日目 8/26(木) 晴れ後曇り時々雨

	烏帽子小屋	5:00 発
5:58 着	烏帽子岳	6:24 発
7:14 着	烏帽子小屋	7:50 発
9:25 着	三ツ岳付近	9:45 発
11:33 着	野口五郎小屋	
計6本	4:36(うちサブザック 1:48)	

この日はまず烏帽子岳をピストン。御来光を見ながら稜線を歩いていく。ピーク手前は危険箇所としている鎖場。慎重に一人一人登って行く。怖い場所ではあったが、逆にそのスリルを楽しめた感もあった。ピークはせまく、みんな石にはりつくような状態で休憩をした。写真をたくさん撮り、烏帽子小屋に戻る。そして野口五郎小屋へ。広尾根をずっと行くコースで楽だろうと考えていたのだが、かなりキツかった。アップダウンが意外に激しかったのだ。ブナ立尾根の方が楽だったような気さえしたが、それでも必死に歩いた。キツさとは裏腹に景色は最高だった。これぞ縦走の醍醐味と言わんばかりの大パノラマ。槍ヶ岳もよく見えた。小屋手前のガレ場を抜け野口五郎小屋に到着。テント泊を予定していたのだが、テントが張れないという事で小屋泊まりに・・・。自炊場を借りてエッセンをしようとしていると、小屋の人が食堂を使わせてくれるという事で食堂でエッセン。小屋泊まりなので気持ちの良い布団。

4日目 8/27(金) 曇り後晴れ後曇り

	野口五郎小屋	4:00 発
4:23 着	野口五郎岳	4:42 発
8:21 着	水晶小屋	8:41 発
11:42 着	鷲羽岳	12:03 発
13:04 着	三俣山荘	
計9本	6:12	

2時30分に起床。他の登山者を起こさないように静かに移動し、朝エッセン。この時も食堂を使わせてもらった。この日は長い行程で皆気合を

入れる。まだ暗い中、ヘッドランプを頼りに野口五郎岳へ。夜明け前のあの何とも言えない色の雲が美しかった。水晶小屋までこれまた長い。ようやく水晶小屋が見えてきたと思ったら、はるか遠い。赤土の道を進み、水晶小屋に着いたのが8時21分。予定時間を少し上ってしまったので、少しペースを上げる。右に雲の平が見え始める。本当に庭園のようだ。いつかは行ってみたいものだと思いながら、鷲羽岳を目指す。鷲羽岳ピークは絶景。何人か(僕も)ストームをしてピークを楽しむ。他の登山者も多く会話が弾んだ。後は三俣山荘まで下るだけだ。コースタイムをオーバーしているの、さくさく行こうと思っていたが、意外に足にきた。ざれ場の急登が、今日の長い行程で疲労した足を襲ったのだ。そえでも何とか下り終えて、三俣山荘に到着。16時の天気図では台風黒い影が着実に北アルプスに迫ってきた。

5日目 8/28(土) 曇り時々晴れ

	三俣山荘	4:30 発
5:41 着	三俣蓮華岳	6:10 発
7:46 着	双六岳	8:12 発
9:28 着	双六小屋	
計5本	3:26	

5日目。まず最初に1本で三俣蓮華岳まで行く。周りはかなりガスっており、景色は皆無。しかし三俣蓮華岳ピークでは一瞬太陽の光が差し込み、幻想的な光景になった。ガスがあるからこそ、このような美しい瞬間に出会える事もあるのだなあとしみじみ感じた。双六岳の稜線コースはゆるやかでだだっ広いルート。広尾根だったがアップダウンも多かった。中道ルート辺りでガスが晴れたので双六岳へ向かう。1年の時見た双六岳の記憶とは違ったように思えた。やはり2回目ともなると少し愛着のようなものがあり嬉しかった。ピークではガスは晴れ、槍ヶ岳が大きく見えた。2年前踏む事のできなかつた槍ヶ岳。今年こそはと思っていたが、天気図や小屋のテレビで見

た予報からも台風が完全に北アルプスを襲撃するであろうことは間違いないようだった。まだエスケープを決定したわけではなかったが……。双六岳を後にして双六小屋に下りる。差し入れゴミのために山口市指定の黄色いゴミ袋をぶら下げたのだが、それを見て山口市在住の方が話しかけてくれた。普段街にいるときはすれ違ってても決して話等しないのに山にいるというだけでこのようにつながりができる。それまで何とも思っていなかったいつもの会話が急に不思議に思えてきた。そしてこの素晴らしさを再認識した。双六小屋に到着し、3年で話し合った結果、エスケープを決定。目前に槍を見ながら、またエスケープかと悲しかったが、しょうがない事だと自らを説得。下級生にその事を伝えるとやはり不満そうだった。

6日目 8/29(日)曇り時々晴れ

	双六小屋	4:00 発
6:05 着	鏡平山荘	5:02 発
8:00 着	秩父沢	8:30 発
9:13 着	小池新道入口	9:30 発
10:00 着	ワサビ小屋	11:07 発
12:04 着	新穂高温泉	
	計6本	5:07

下山の日。天気は曇りだった。エスケープの悲しさと下山の喜びが交錯する複雑な感情だった。しかし、後はもう下りるだけ。最後の気のゆるみがないよう注意を促す。秩父沢でのどを潤し、新穂高温泉へ。浴場で汗を流した。本当に気持ち良かった。バスで松本まで移動し、あがたの森で下山ビール。お疲れ様でした。

計 33本 総コースタイム 24:08 うちサブザック行動 1:48

最後にこの計画を立てるにあたって御指導、御協力して下さった先輩方や、差し入れに来てくれた先輩方、他大学の皆さん、本当にありがとうございました。今回の合宿では事前の調査不足から

野口五郎小屋に小屋泊まりになるなど、自分のミスが多かったように思います。しかし、先輩方や同期の協力の下、エスケープはしましたが、何とか事故もなく楽しめたのではないかと思います。心残りには1年生を1人合宿に連れて行けなかったことです。僕はこれが最後の合宿となったのですが、これから合宿を立てていく後輩達には、自分の悔いが残らないよう頑張ってもらいたいと思います。

3.3 夏合宿結果報告書 北アルプス(裏銀座～表銀座)

PL 生田将吾

この度、夏合宿のPLを務めさせて頂きました。経済学部経済学科3年生3年の生田将吾です。今回は裏銀座から表銀座へ抜ける北アルプス縦走コースです。両Partyとも同じコースですが、PLを務めた者としてご報告させて頂きます。

AP1(8/22) :眠たい目をこすって、朝早く朝食の支度をします。前日までの忙しさで体に気だるさが纏わりつきますが、この日を迎えられるP-menたちは、どことなく興奮した様子。出発の朝、というのはこういうものです。今回は、すべて在来線でいくので、1日中電車で揺られます。それでもP-menたちは、頂いた差し入れを片手に気分の高揚を押さえられずにいました。この日の宿泊地、亀山公園は居心地のいい公園で、僕たちはイベント用のステージのような所の屋根の下で、大の字になれるくらい広く空間を使いながらゆったりと眠りにつきました。

AP2(8/23) :これだけ電車に乗っていると、さすがに体が痛くなりますが、信濃大町よりタクシーに乗り換えです。土砂で造られた高瀬ダムからの景色は、感慨深いものがありました。長い吊り橋を渡るとテン場に到着。明日はいよいよ山に、と意気込むも、この日の夜から、少し雲行き

は怪しいものでした。

1日目 : 雨のため沈。この日から、一日遅れで出発した工学部と合流し、最後までほぼ一緒に行動することになります。

2日目 : 1日待った分、P-men たちはより元気よく出発しました。北アルプス3大急登のひとつブナ立て尾根を行きます。気持ちのよい樹林の中をサクサクと登っていきます。P-men のひとりが休憩した場所に忘れ物をするというアクシデントはありましたが、稜線目指してひたすら登ります。烏帽子小屋に着き、この日の行程は終了です。ここではリンドウの花が僕たちを迎えてくれました。

3日目 : 見るもよし、登るもよし、烏帽子岳はいい山でした。朝日に照らされた姿は槍の穂先の如く鋭く輝いています。三点支持を使って登る岩壁も、その尖形を際立たせます。風は強く肌寒かったですが、P-men たちはその頂上からの景色に暫し魅入られていました。この日の残りは稜線歩きがほとんどで、北アルプスの壮大さを目の当たりにできるコースでした。野口五郎小屋ではテント泊ができないということなので小屋泊まりになりました。薄暗い小屋の中は独特の雰囲気醸し出しており、貴重な経験ができたと思います。

4日目 : 野口五郎岳についた頃はまだ暗くて、景色は見えない状態でしたが、歩いた感じでその大きさは分かりました。歌手の野口五郎がその志にした雄大さというものが理解できたような気がします。この日はもうひとつ鷲羽岳というメインがありました。ただそのメインに辿り着くまでが長かったのです。P-men たちも鷲羽岳直前の鞍部まで来た時、さすがに疲労の色が見えていました。しかし、やはり鷲羽岳には疲労は勝てません。達成感と充足感が入り混じる、ワンゲラーにとって至福の空間でした。この日は三俣山荘でテント泊です。P-men の話によると、ここには『仙人』がいたとか。

5日目 : 御来光、ブロッケン、雲海、朝露に光る高山植物、この日は山の美しさの詰まった1日でした。双六小屋までの楽なコースでしたから、比較的のんびりと行くことができ、満足のいくものになったと思います。テン場に着き、この日、明日の下山を決定します。ついに台風がやってくることになったからです。

6日目 : 朝起きたら、小雨が降っています。台風の影響でしょうか、それとも僕たちをまだ山に残しておきたかったからでしょうか。後者なら嬉しいことですが、とにかくこの日は下山です。雨に髪を濡らし、新穂高温泉へと向かいます。山に留まりたい気持ちと久しぶりに下界に下りられる気持ちとが交錯して複雑な気分ですが、秩父沢の名水を飲み、ワサビ平小屋を通り過ぎていくと、人里に下りてきた安堵感に包まれていきました。P-men たちも1週間ぶりの下界に懐かしさと嬉しさを感じている様子でした。新穂高温泉では、登山者に開放されている温泉で溜まったアカを洗い流し、疲れを癒しました。北アルプスの山々を見上げると、合宿の思い出が蘇り、そして下山したことを実感しました。

裏銀座縦走に止まった今回の夏合宿ですが、北アルプスの良さというものは十分に体感できた合宿だったと思います。1年生も初めての合宿を楽しんでくれていたようで、PLとして、そして執行部の人間として大変嬉しく思います。この思い出が今回の合宿参加者の心に未永く生き続けてくれることを願います。最後になりましたが、今回も様々な方々にご協力して頂き、感謝の念でいっぱいです。今回の夏合宿関連すべてにあたりまして、ご指導下さった先輩方、差し入れに来て下さった方々、本当に有り難う御座いました。心よりお礼申し上げます。

3.4 第41回中国四国合同ワンデリング 結果報告

責任者 井手口謙三

今年の10月9日～11日にかけて、秋吉台にて中国四国合同ワンデリングを行いましたので報告します。

参加大学

岡山大学	就実大学
鳥取大学(湖山)	鳥取大学(米子)
安田女子大学	島根大学
徳島文理大学	徳島大学(常三島)
高知大学	高知女子大学

計 10校

主管大学

山口大学	山口大学工学部
山口県立大学	

計 3校

参加人数は各大学と主幹校の下級生が計64名。本部役員が主管校の上級生と先輩方で計26名となっております。

10月9日(土)

13:50 新山口駅全大学集合・移動(バス)

15:00 秋吉台家族旅行村キャンプ場に全大学到着

15:30 開会式

雨のため体育センターで行いました

16:00 エッセン

各Partyのエッセン係(食当)が様々な工夫を凝らしたエッセンを披露。大声でエッセン紹介をしていました。豆乳を使ったものなどもあり、大好評だったようです。

18:30 運動会

体育センターで行いました。Partyとブロックごとの競技形式。参加者の皆さんは

かなり燃えてくれました。

19:30 運動会終了。その後自由時間。

Partyでトランプをしたり、会話を楽しんだりしていたようです。

21:00 就寝

10月10日(日)

6:00 起床、エッセン

8:00 山行、洞窟出発

Aブロック(龍護峰)、Bブロック(秋吉台散策1)

Cブロック(秋吉台散策2)、Dブロック(秋芳洞)

途中、雨の為にA,B,Cブロックは少し大変だったようです。Bブロックは行程時間が長いため、エスケープしました。やはり好評だったのは秋芳洞だったようです。

16:00 エッセン

メニューはすき焼き。皆さん、おいしかったと言ってくれました。

19:00 巢炭津大会・団結踊り

本当ならキャンプファイアーの予定だったのですが、雨の為に体育センターにてスタンプ大会と団結踊りを行いました。各大学、力の入ったスタンプを披露してくれました。

21:30 交流会開始

さすが中四のワングラー!!皆さんとても楽しそうでした。

1:00 就寝

一応就寝としていましたが、朝方まで寝ない人もいました。

10月11日(月)

7:00 起床、エッセン

皆さん、眠そうでした。

8:30 撤収、ゴミ拾い

9:30 メッセージ交換

ファイヤー場にて。お互いメッセージと

住所を交換してもらいました。

10:00 閉会式、記念品贈呈、写真撮影

記念品は「絆」と書かれた大理石です。

ようやく終わった。というのが正直な感想です。夏合宿が終わってからすぐに中四合 W という形だったのでつらくなかったと言えばウソになります。今回の中四では、自分の不手際でパンフの郵送が遅れたりと参加大学の皆さんや本部役員、先輩方に多大な迷惑をかけてしまいました。この場を借りてお詫びしたいと思います。本当に申し訳ありませんでした。そんな自分でありましたが、先輩方の御協力や同期の支え、また後輩達にも頑張ってもらう事により、この合 W を無事終える事ができ、本当に感謝しております。ありがとうございました。合 W の内容としては、山行中に雨が降ったり、キャンプファイアーが雨でできなかつたりと天候に恵まれなかったのですが、今回の合 W のテーマである「カルスト台地に誓った絆」を十分に達成できたように思います。そして、この絆がいつまでも続く事を願っています。閉会式が終わり、参加者の人達から「楽しかった。ありがとう。」と言われた時は本当に実行委員長をやって良かったなぁと感じました。次回の合 W をどこでやるかはまだ決まっていないと思いますが、何年かして順番が回ってきた時には是非また山口でやってほしいと思います。いつまでもこの素晴らしい伝統が続くように祈っております。

3.5 アフター結果報告 中央アルプス (木曽駒ヶ岳、宝剣岳)

PL 上岡敬巧

アプローチ 9/3 晴れ 一年生に差し入れをいただき、一足先に松本を後にする。電車とタクシーを使い2時間程度で今日のテント場である木曽駒オートキャンプ場に到着。

着いてからエッセンまで時間が余っていたので

キャンプ場周辺を散策したり、差し入れを食べたりして時間をつぶしました。この日のうちに差し入れの8割方がなくなり、次の日から PL は楽になりました。

県の森出発 9:35

木曽駒オートキャンプ場着 11:45

1日目 9/4 曇りのち雨 キャンプ場から山の2合目までタクシーを利用しました。周りは真っ暗の中、山行を始めました、周りが暗いということもあり登山道の入り口を見過ごし少し時間を食いましたが、正しい道を見つけてスキー場のゲレンデを上って行きました。

スキー場から林道となり、だんだんと辺りが明るくなる中の林道を進み、一度渡渉すると本格的に山道が始まります。急な樹林帯の登山道が続くが、途中には力水と書かれた水場があり、それを飲むと力が少し回復した気がしました。

あいかわらず、展望もない樹林帯の道で、少し傾斜が緩くなってきたかなと思ったところに7合目の避難小屋にたどり着きました、小屋は近年建設されたらしくとてもきれいな作りになっていました。ここでは山では弱いと言われているvodafoneの携帯電話が通じたので驚きました。小屋から頂上の方をみると雲がかかっていてこれからの行程が心配になってきた。

ここから傾斜もゆるくなってきて、楽になってきた。しかし予想していたように、次第に辺りがガスってきて心配になった。樹林帯もなくなってきて、高山植物が増えてきたぐらいから、また、登りがきつくなってきたところに、ガスもきつくなってきて、景色も楽しむことがなくなってきた。

天気も悪いせいか、9合目までに会った人が一人だけと、とても少なかったのが気になったが、9合目の小屋に着くと人は増えて来たので安心しました。

ガスの中頂上にたどり着くと、いっきに人も多くなってきて、小学生もいるくらいでした。写

真を撮ったら今日のテン場の頂上山荘へ下りました。

テントを建ててエッセンをとった後、雨が凄まじく降り、テントの下が川のようになり、危うくジョリッパとかが流されるとこでした。雷も鳴り出し、一時小屋に避難することにしました、少しましになってからテントに戻り就寝しました。

キャンプ場発	3:45
木曾駒ヶ岳着	12:23
頂上山荘着	12:59
エッセン	16:00
就寝	20:00

2日目 9/5 雨 この日も起きると雨が降っていて沈に決定、小屋の人も優しく、利用者も少なかったせいか、小屋に入れてもらいストーブに当たりながら本を読んで今日は過ごしました。

16時の天気図を見てこれから晴れるようにも思えず台風も近づいていてP-menも下山したいとの意見が多かったので、次の日エスケープしよう決めました。

3日目 9/6 曇り 起床の時間に外に出てみると、雲の切れ目が見えてここから初めて辺りの山々の様子が分かった。パッキングを済ませ出発し、千畳敷カールへ下っていった。ここまで来ると観光気分のおばちゃん達が増えてきて僕らのような登山者の方が少数派になっていた。たった100mくらい下っただけなのに、やはりロープウェイはすごい。

そのロープウェイで僕らも下山し、あれだけ苦労した登りとは反対に10分もせず下山できた。ここからバスでこまくさの湯まで行ってアフターの疲れを癒した。

初めてテント泊のPLになってみましたが天候判断などが難しかったです、もっと事前に準備が出来ていれば出発を1日早めることが出来、良い山行が出来たかもしれない、というのが反省点です。しかしガスのなかでしたが木曾駒ヶ岳に登れたというの

は良い思いでとなったと思います。

頂上山荘発	8:00
千畳敷着	9:35
こまくさの湯(アフター終了)	11:45

3.6 一年生合宿結果報告(美ヶ原)

PL 松中季紅

9月3日から9月7日に一年生合宿に行ってきました。オッチェン5名、メッチェン2名の計7名でした。

9月3日 アプローチ 晴れ

県森出発	10:33 発
12:30 着	三城 12:40 発
13:40 着	広小場

計1本 1時間

県森を出発し、美ヶ原へ。バスで三城のバス停まで行き、そこから広小場キャンプ場へ向かいました。差し入れはオッチェンにも持ってもらいました。はじめはロードを歩き、その後は沢沿いの山道を登って行きました。途中、少し道に迷いそうになりましたが何とか広小場に到着しました。天気もよく、気持ちよかったです。

9月4日 1日目 曇り

広小場	6:00 発
6:27 着	三城 6:40 発
8:32 着	王ヶ頭 8:49 発
9:10 着	王ヶ鼻 9:23 発
10:13 着	塩くれ場 10:28 発
11:12 着	広小場

計5本 4時間

1日目の行程。三城へ下り、道標に従って王ヶ頭へ向かいます。はじめは少し急な登りで、周りも木々に覆われていました。だらだら登っていくと、道幅が広い平らな道に出ました。そこから、テレビ等の電波塔を見ることができました。再

び少し急な山道を登っていきます。登山中、オッチェンは相変わらず元気でゲームをしており、大変にぎやかでした。やっと王ヶ頭ホテルが見え、王ヶ頭に到着です。残念ながら、ガスっていて何も見えませんでした。

その後、王ヶ鼻へ行った後、塩くれ場へ向かいました。車も通るような広い道を行きました。途中、広小場で出会った登山者の人と出会いました。茶臼山で富士山が見えたと言っていました。茶臼山は2日目の行程だったので、自分たちも是非眺めたいと思いました。塩くれ場に着くと、放牧された牛たちがいました。近寄りましたが反応なしでした。休憩後、広小場へ百曲りの登山道を下りました。早く着いたため、エッセンは広小場ですとりました。

9月5日 2日目 雨 雨の為沈。みんなでトランプや会話をしながら過ごしました。

9月6日 3日目 曇り

広小場

6:16 美しの塔 6:31

7:11 牛伏山 7:30

10:19 広小場

計4本 4時間15分

総コースタイム：8時間15分（合計10本）

2日目の行程。雨もやみ何とか登ることができました。百曲りの登山道を登り、美しの塔につきました。想像と違ったためか、オッチェンは文句を言っていました。が気にせず、牛伏山へ向かいました。風が強く寒かったです。茶臼山へは牧場の中を歩いていきました。牛の糞がたくさん落ちていたと聞きましたが、そこまでありませんでした。しかし、踏まないようにみんな気をつけて歩いていました。茶臼山も相変わらずガスっており、残念ながら何も見えませんでした。広小場に到着し、一年生合宿終了です。

無事に合宿が終了してよかったです。今回の合

宿ではこれから先、二度と経験することのできないような体験をすることができたと思います・・・とても大変だったけど、それはそれで楽しかったような気がします。今ではいい思い出です。

この合宿に当たりお世話になった人達に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

3.7 春合宿について

上岡敬巧

春合宿を計画中の部員の一人が、体調不良により合宿に参加することができなくなってしまい、今のところ、春合宿については報告することができない状態となりました。ご心配をかけることになるとは思いますが、2005年の通信第一号でご報告したいと思います。

第4章

現役活動報告 -工学部-

4.1 執行部近況報告

第42期主将 河田優

工学部は現在、無事に80キロ耐久徒歩が終わり一段落ち着いたところです。しかし八耐が終わると同時に部員が1人やめてしまい、少し寂しくもなりました。そのため執行部の役職に一部変更がありましたのでその報告をさせていただきます。

河田優 主将, 会計, 渉外, トレーナー, 装備
上村紘樹 気象, エssen
岩佐尚美 記録図書, サブトレーナー, 衛生

現在、春合宿の安全対策を週1ペースで行っています。今回は奄美大島ということで、山とはまた違った活動に現役一同期待に胸を膨らませています。計画の内容については「春合宿コース紹介」をご覧ください。2年生は来年の県合に向けての準備を着実に進めており、どんな合宿になるのか期待しています。

大変簡潔ですが工学部の近況は以上です。今年も残りあとわずかとなりました。これから寒さが一段と増してくるため、春合宿を控えている私達にとって健康管理に十分気を使わなければならない時期となります。また同時に春合宿のPLが忙しくなってくる時期でもあり、不安になることが多々あると思います。しかし現役同士で支えあい、合宿成功に向けて乗り越えていきたいと思えます。

4.2 夏合宿結果報告

PL 河田優

今年度、夏合宿のPLを努めさせていただきました、工学部主将、3年の河田優と申します。

工学部では去年夏合宿を行えなかったため、後の後輩達に繋げていくために今年は絶対に成功させたいという思いでこの計画に取り組んできました。計画を立てる段階で先輩方、P-menにはいろいろと御迷惑をお掛けしましたが、何とか合宿までこぎつけることができ、そして無事終了することができました。

それでは結果報告として合宿での出来事、感想などを簡単に述べさせていただきます。

AP1 日目 (8/23) 希望に胸を膨らませ、OBの先輩方に見送られながら常盤駅を出発しました。新山口駅では本学の先輩方にも差し入れを頂き、これから始まる長旅の貴重な食料かつ合宿に備えての栄養源とさせてもらいました。18時間も電車で揺られ続け、やっと松本駅に到着したときには皆ぐったりとしていました。この日はこの松本駅前でビバーク。疲労が激しかったためしっかりと睡眠をとりたかったのですが、人通りの多い駅でのビバークはそうもいきませんでした。合宿前はきまって皆不健康ですね。

AP2 日目 (8/24) この日も朝早くから電車で移動となりました。信濃大町駅からタクシーに乗り替え、くねくねとした堤防を登っていき高瀬

ダム堤に到着。タクシーを降りると澄んだ空気とその冷たさに、アルプスに来たという実感が湧いてきました。濁り沢のテン場で、1日早く到着し沈をしていた本学のパーティーと合流しました。ここから、本学と同じコースでほぼ3パーティーによる合宿になるとはこのときは思ってもいませんでした。

テン場では何度か小雨に降られ、翌日の天候が気になりました。

1日目 (8/25)

	濁り沢キャンプ地	4:30 発
8:23 着	タヌキ岩	8:41 発
10:16 着	烏帽子小屋	
	コースタイム	4:01

心配していた天気も良くなり、まだ冷え込む寒さの中出発しました。この日はいきなりの1200メートルアップの急登で、P-men 全員息を切らして死に物狂いで登っていきました。しかし高度が増すにつれて展望が良くなり、その絶景から疲れが吹き飛ばすようでした。途中で先に出発していた本学と出会い、追い抜け追い越せのレースが始まりました。この本学とのレースが影響したのか予定よりもかなり早く烏帽子小屋に到着しました。どっと疲労が増しましたが早くテン場に着了いたのでゆるゆるとでき、結果としては良かったように思います。テン場に到着してから P-men の1人が軽い高山病にかかり、PL としてとてもハラハラする思いでしたが、次第と回復に向かっていき事なきを得ました。しかしこの症状は周期的に繰り返され、合宿終了まで続くこととなります。

この日から AP 中に日本の南に発生していた台風の進路が変わり、その動きを気にしながらの合宿の幕開けとなりました。

2日目 (8/26)

	烏帽子小屋	4:30 発
5:20 着	烏帽子岳	5:32 発
6:17 着	烏帽子小屋	6:45 発
8:01 着	三ツ岳北峰	8:14 発
10:18 着	野口五郎小屋	
	コースタイム	4:06

まず烏帽子岳のピストンです。まだ夜が明けていないので、月明かりと懐電で足元を照らしながらの山行となります。烏帽子岳に近づくにつれ次第と辺りも明るくなり、何とかピークで御来光を見ようと思いましたが、その思いも空しく烏帽子岳麓で御来光を見ることとなりました。烏帽子岳直下の鎖場は思っていたよりも狭い道で滑落の心配がありましたが、無事にピークにたどり着けました。ピークは狭く、これまた滑落の恐怖に襲われました。烏帽子岳の下りで本学とすれ違い、烏帽子小屋に戻りました。ここから野口五郎小屋へ向かいます。野口五郎小屋まではわりと緩やかなコースであったためハイペースの山行でした。三ツ岳北峰登りの途中で南の方角に槍ヶ岳が現れたときには P-men のテンションが上がり、さらに歩くペースがあがったように思います。コブをいくつも越え、ついに野口五郎小屋に着きました。この日は小屋泊まりで久しぶりに布団で寝ました。やっぱり布団は寝心地が良い！家の布団で寝るのはまた違った気持ち良さがありました。

3日目 (8/27)

	野口五郎小屋	4:30 発
4:48 着	野口五郎岳	5:16 発
8:36 着	水晶小屋	
9:49 着	ワリモ岳	10:08 発
10:43 着	鷲羽岳	11:33 発
12:33 着	三俣山荘	
	コースタイム	5:15

夜中にバラついていた雨も上がったため野口五

郎小屋を出発しました。正直もう一日小屋泊まりしたかったという想いもありました。野口五郎岳周辺は聞いていた通りの岩がゴロゴロした道でした。途中で道を間違えてしまい、野口五郎岳へは直登するはめになりました。ピークで日の出を待ち、雲の切れ間から朝焼けと共に現れ、紅蒼い輝きを放つ朝日には感動させられました。その余韻に浸りながら三侯山荘までの先の長い道のりを進んでいきます。水晶小屋までは何箇所か危険箇所がありました。P-men 一人一人が慎重に対処したため何事もなく過ぎることができました。しばらく行きワリモ岳近くで本学に追いつきましたが道が狭くて追い抜くことができず、恐れていた15人パーティーとなりました。他の登山者からみると異様な光景だったことと思います。しかし気分は15人パーティーのPL(私は最後尾だったので)、あまり悪い気はしませんでした。鷲羽岳は日本百名山に選ばれるだけあり、360°のパノラマでアルプスの山々を一望できる素晴らしいピークでした。そのため鷲羽岳でとる昼エッセンは一段とおいしく感じました。鷲羽岳からは急坂の下りで、足をガクガクさせずべりながら下っていき三侯山荘に到着です。

翌日は黒部五郎岳に行く予定でしたが、台風が山域方面に向かってきていたためコースカットをして双六小屋に行くことに決めました。

4日目(8/28)

	三侯山荘	4:00 発
5:20 着	三侯蓮華岳	5:41 発
7:27 着	双六岳	7:39 発
8:31 着	双六小屋	
	コースタイム	3:34

台風を気にしての早出の出発で、ガスで視界が悪い中の山行でした。なかなかガスが晴れる気配がなく不安でした。この天候で出発した事はPLの判断として良くなかったと反省すべき点でした。三侯蓮華岳登りで他大学のワングルと出会

い、山行の話などを聞かせてもらいました。三侯蓮華岳のピークでは記念として一緒に写真を取り、その後縄跳びをして遊びました。当たり前ですが息切れがとても激しかったです。三侯蓮華岳の、いや日本アルプスのピークで縄跳びをするのは史上初ではないかと思います。これも思い出の1つになりました。ここで他大学のワングルと別れ、双六岳方面へと向かいました。双六岳付近はガス時は危険箇所だったため、双六岳には行かず中道コースを下ることにしました。しかし途中でガスが晴れてきたため、引き返して双六岳に登りました。2年生は双六岳でスゴロクをしていました(これも史上初かな?)。合宿最後のピークを十分に満喫し、別れを惜しみながら双六小屋へ向かいました。私は1年の夏合宿で1度双六小屋に来ており、二年前とは全くと言っていいほど変わっていないその素朴な佇まいにとっても懐かしさを感じました。

さらなる台風の接近により、翌日は新穂高温泉へ下山することにしました。サヨナラ槍ヶ岳。

5日目(8/29)

	双六小屋	4:30 発
6:18 着	鏡平山荘	6:35 発
8:03 着	秩父沢	8:21 発
9:08 着	ワサビ平小屋	9:25 発
	新穂高温泉	10:26 発
	コースタイム	4:37

目の前にして槍ヶ岳に行けないという悔しさと歯痒さを押し殺し、双六小屋を後にしました。下るにつれて次第と暖くなる気温。下界の懐かしさを感じると同時に、合宿が終わりに近づく寂しさを感じました。

下山後は新穂高で温泉に入り、1週間分の疲れと汚れを落としました。

総コースタイム 21:46 (計33本)

夏合宿。私にとってはまた全行程行くことが出

来ませんでした。しかしアルプスの山々を縦走でき、尚且つ P-men 全員が無事下山できているのでこれは贅沢な意見かもしれません。P-men にとっては決して成功とは言えない合宿だったかもしれませんが、とても良い思い出になったことと思います。これも幾度に亘る安全対策でご指導、ご鞭撻して下さった先輩方を始め、支えになってくれた P-men のお陰だと思えます。この場を借りてお礼申し上げます。来年の夏合宿こそは全行程制覇できることを願っています。

4.3 80km 耐久徒歩結果報告

責任者 園田純平

11月6日、7日に80km耐久徒歩が行われました。前回のOB通信でマイペースをカットすると考えている旨を書きましたが、逆に役員・参加者の負担になるのではということで今年も例年通りマイペースを実施しました。今年は天候に恵まれ、日中は立っているだけで汗ばむほどで、参加者の方にとってはやや厳しい条件だったかもしれません。

6日の23時45分に萩の川島公会堂を3パーティーで出発しました。夜間行動中はややガスが出ており星は見えませんでした。死んだ猪に出会いました。割合みんな元気で、特に一年生は歌を歌いながら歩くなど少し元気すぎるほどでした。

予定より1時間早く、7日の6時に道の駅・みとうに到着。朝食をとり、7時45分にマイペース出発。途中参加者の一人が道に迷いドライバーが迎えに行くということがありましたが、15時15分には最後の一人がゴールし、全員無事工学部に到着しました。順位は男子1位が本学2年の上岡敬巧、女子1位が本学1年の松中季紅でした。皆ゴールでは歩き方がおかしく、一般の方の奇異の目を集めていました。しかし参加者の方の疲れきった表情の中に「やり遂げた」という気持ちが

あったなら実行委員長として本意であります。また余談になりますが、この後本学では飲み会が開かれ、疲れ知らずの猛者達が集ったそうです。

今回の八耐を振り返ると多くの反省点がありますが、それを糧として次回からの八耐をよりよいものにしていてもらえればと思います。また参加者の方、役員、その他ご協力いただいた方、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。これからもこの八耐が続いていくことを期待しています。

4.4 春合宿コース紹介（奄美大島ロードトレッキング）

PL 上村紘樹

このたび工学部の春合宿のPLを務めさせて頂くことになりました。応用化学工学科2年生2年の上村紘樹と申します。

今回の春合宿は奄美大島でロードトレッキングを行います。奄美大島はジャングルやマングローブ林、さんご礁などとても魅力的な自然が多く存在します。なお、テン場は全て海岸のそばなので、波のせせらぎを感じつつ眠りにつけます。

コースですが、宇部から電車、高速バス、フェリーを乗り継ぎ名瀬港に向かいます。まず、金作原原生林というジャングルに行き、散策しながら海岸のテン場に向かいます。ここから南下し、ゴールの古仁屋へ向かいます。途中、国内第2位のマングローブ林、玉石で敷き詰められているホノホシ海岸、エメラルドグリーンのヤドリ浜など見どころがたくさんあります。

今回の合宿形態はロードトレッキングということで錬成、PW、トレ、P - meeの内容を変え、新しい試みで合宿に臨みます。そのことによって多々不安がよぎりますが、P-men全員で力を合わせて乗り切りたいと思います。最後にこの春合宿の計画に対してアドバイスを頂いた先輩方には感謝しています。

行程予定表

1 日目 名瀬港 金作原原生林分岐 朝戸 小
湊海岸 (17.6km、6:20)

2 日目 小湊海岸 朝戸分岐 和瀬海水浴場
(14.0km、4:40)

3 日目 和瀬海水浴場 城 見里 西仲間 山
間 戸玉 市海水浴場 (17.9km、6:00)

4 日目 市海水浴場 嘉徳海岸海水浴場
(14.5km、5:10)

5 日目 嘉徳海岸海水浴場 網野子分岐 勝浦
阿木名 伊須 蘇刈 ホノホシ海岸 ヤドリ浜
キャンプ場 (22.2km、7:45)

6 日目 ヤドリ浜キャンプ場 蘇刈 嘉鉄 清
水 古仁屋 (11.0km、3:45)

5泊6日 予備3日 総コース距離 97.2km

総コースタイム 33:40

その他

Y.U.W.V. ホームページ

4年前に先輩方によって作成された山口大学ワ
ンダーフォーゲル部のホームページをご紹介いた
します。OB 通信も掲載しているので是非ご覧下
さい。

Y.U.W.V. ホームページ URL

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>

2004 年はもう終わろうとしています。そして
事務局も交代の時期がせまっています。この1年
間、事務局をやってみて大変なこともありまし
たが、やりがいのある仕事であったと思います。ま
た、たくさんの方に御指導、御鞭撻いただきまし
た。本当に有難う御座いました。

編集後記

編集 植本洋

OB 通信第二号の編集を終えて、今ほっとして
います。今回は L^AT_EX で通信編集を行いまし
た。このソフトは前事務局の先輩に教えていただ
いたもので、美文書作成と HTML への変換が可
能ということで利用しました。

少し気になるのは、次の事務局では他のソフト
(Word など) を使い、また次は L^AT_EX というよう
に通信の様式がばらばらになってしまうのではな
いか、ということです。ただ、これは事務局が毎
年変わり、パソコンの技術、知識、ソフトもそれ
ぞれということをご理解いただきたいと思います
のですが・・・。

今回、構成としては事務局として伝える分量が
多いので一つの章として抜き出してみました。分
かりやすかったでしょうか。その中での“お知ら
せ”の項で述べましたが、会費が未納の場合、自
然脱会となり、通信が発送されないことにご注
意ください。